



Jichi 地域連携ニュース

- ・地域医療連携研究会の開催報告
- ・超高齢社会の脳を護る…………… 田中亮太
- ・ハローワーク宇都宮による治療と仕事の両立に関する相談会について
- ・自治医科大学附属病院医師同門会について
- ・FAXによる患者様紹介について

地域医療連携研究会の開催報告

第 8 回自治医科大学附属病院地域医療連携研究会を開催しました 患者サポートセンター

5月25日（土）18時より、ホテル東日本宇都宮において、「第8回自治医科大学附属病院地域医療連携研究会」を開催したところ、県内外46の医科・歯科施設や当病院から、医師・歯科医師・看護職・相談員等、合計147名が参加されました。

研究会では佐田病院長の開催挨拶に続き、上田入退院支援室長を座長として、次のとおりご講演いただきました。



地域医療連携とインフルエンザ

自治医科大学附属病院患者サポートセンター 森澤雄司センター長
(感染制御部長・病院長補佐)

質疑応答の後、患者サポートセンターの笹沼副センター長による閉会挨拶をもって研究会は成功裏に終了しました。

また、研究会終了後開催された情報交換会には約120名が参加し、西野耳鼻咽喉科長の挨拶、菅間記念病院の竹内病院長の乾杯を皮切りに活発な情報交換・懇談が行われ、大柴看護部長の閉会挨拶をもって、情報交換会も大変盛況のうちに終了しました。

なお、来年（2020年）も、5月下旬に開催する予定であり、引き続き充実した研究会を実施したいと考えております。





昨年4月に附属病院脳卒中センター長を拝命しました田中亮太です。私は宇都宮市出身で順天堂大学卒業後、水野美邦教授が主催されていた神経学講座に入局しました。水野教授は自治医科大学神経内科でも教鞭をとられ、その後順天堂大学に教授として赴任されました。臨床神経学の基礎を叩き込まれ、22年間関連施設で勤務してまいりました。大学院卒業後はカナダのカルガリー大学に博士研究員として留学し、神経幹細胞による脳梗塞治療開発の研究に励んでまいりました。神経内科領域での専門は脳卒中で、脳卒中の急性期治療、臨床研究、そして新規脳保護薬の開発、再生医療などの基礎研究に従事してまいりました。栃木県は古くから脳卒中の予後が悪い地域として知られております。その地で脳卒中センター長を拝命することは大変身に引き締まる思いです。

さて、日本は未憎悪の超高齢社会を迎えています。人口に占める高齢者の割合によって、高齢化社会（7-14%）、高齢社会（14-21%）、超高齢社会（21%を超えている）に分類され、現在高齢化率が27.3%（内閣府2016年）に達しており、日本はまさしく超高齢社会を迎えています。また人口減少と少子化の影響もあり、高齢化の流れは今後も進み、2065年には高齢化率は38.4%に増加すると予想されています。

この高齢化に伴い脳領域の疾病の増加が予想されているのが、脳卒中と認知症です。すでに寝たきりの原因の1位が脳卒中、2位が認知症であり、この二つを合わせると半数以上を占めることになります。一方高齢者の要介護の原因に絞るとすでに認知症が最も大きな原因を占めており、まさしく超高齢社会における脳卒中と認知症の疾病対策は喫緊の課題であると言えます。脳卒中の急性期医療はtPA静注療法や血栓回収療法のエビデンスが確立され、患者さんの予後が大きく改善できる時代になりました。脳卒中急性期医療の均てん化が求められる一方で、地方では都市部に比べ専門医数が不足しており、必ずしも万全な医療体制を整えられているとは言えません。脳卒中の領域でもいわゆる医療の地域格差が広がっています。この地域格差を埋めるためにも脳卒中医療に携わる若手医師の育成、地域医療連携の充実化、遠隔医療など導入は重要な課題と言えます。一方で、地方における医療体制の整備には一定の時間を要します。脳卒中急性期医療の整備と並行して強力に推進していく必要があるのが、脳卒中発症予防のための生活習慣・生活習慣病の管理であると考えます。脳卒中急性期医療の現場では1次予防の重要性を改めて痛感することが多くあります。例えば、非外傷性脳出血は高血圧症の治療が浸透し、1950年代から激減しました。一方最近の報告では脳出血の発生率が少しずつ上昇しているというデータも報告されています。我々が行っている脳出血の登録研究でも30歳から40歳代の脳出血では50%以上が、50歳から60歳代では40%以上もの症例が未治療の高血圧症を有していました。昨今肥満や糖尿病の疾病予防の啓蒙活動が盛んに行われていますが、一方で脳卒中の最大リスクである高血圧管理の意識が薄れてきている可能性があり、今一度疾病対策の再点検を行う必要があります。また高齢者では心房細動に起因する心原性脳塞栓症が最も多い病型です。心房細動に伴う心原性脳塞栓症は重症度が高く、発症すると重度な後遺症を残す可能態が高い疾患です。この心房細動による心原性脳塞栓症は経口抗凝固薬の使用によって高率に脳梗塞の発症を抑制す

る 1 次予防が可能で、調整されたワルファリンを用いれば 60% 前後の脳梗塞発症が予防可能です。さらに DOAC (Direct Oral AntiCoagulation) はワルファリンと同等かそれ以上の効果が期待され、頭蓋内出血のリスクは半分に抑えることが可能で、経口抗凝固薬のパラダイムシフトを迎えたと言っても過言ではありません。一方で自治医大での症例を解析すると、心房細動合併脳梗塞では発症前に経口抗凝固薬で治療されている脳梗塞患者は全体の半数未満でした。これは 心房細動に対する治療が適切に行われていない可能性と無症状で診断されていない subclinical AF を持つ高齢者が多いことに起因していると思われます。高齢者においては未診断・未治療の心房細動をいかに減らすかが、脳梗塞減少に重要です。高齢者の日常診療では心房細動を見逃さない、そして診断したら適切に治療する取り組みが重要です。このように適切に治療されれば脳卒中を予防できる疾病対策が十分に整備されていないのが現状です。我々は疾病を予防出来る多くのエビデンスは獲得しましたが、これをどのようにリアルワールドで実践し、結果に結び付けていくか、その治療戦略を練り直す時期に来ているのだと思います。

認知症に関しては、残念ながら根本的な治療法は未だ確立されていません。現在日本人の認知症の半数以上がアルツハイマー病です。加齢や遺伝的背景などの古典的リスク以外に、最近では高血圧や糖尿病などの生活習慣病や生活習慣がアルツハイマー病を含めた認知症の発症に大きく関与していることが分かってきました。また日本人は MRI などで見られる無症候性ラクナや白質病変を合併するアルツハイマー病の患者さんが 9 割近くもいることが報告されていますが、このような脳小血管病変の合併は認知機能の低下がより高度になることも分かっています。久山町研究からはアルツハイマー病がこの 14 年で約 2 倍に増加していると報告されていますが、一方で欧米の代表的な疫学研究では認知症の発生率が減少しているという報告が多く見られます。世界的な人口高齢化の中で、認知症の発生率が減少しているという報告は興味深いことです。その詳細はまだ分かっていませんが、教育歴の長さが認知症発生に影響しているようです。さらには高血圧や糖尿病などの心血管病のリスク因子の積極的な治療が認知症発生率に影響していることも指摘されています。欧州では "What's good for your heart is good for head" と心血管病のリスク因子をしっかりとコントロールすることはまさしく認知症発症予防につながる言われています。

このように超高齢社会においては若い世代から生活習慣と生活習慣病の管理の重要性を共有し、これを適切に実践することが健康寿命を保つ重要な戦略と言えます。超高齢社会の脳を護るために脳卒中の 1 次予防と急性期医療の両輪を充実させることが重要であり、この取り組みは認知症発生率減少にも大きく寄与するものと考えます。

最後になりますが、自治医科大学脳卒中センターでは地域の脳卒中急性期医療を担う基幹病院の役割を果たしながら、絶えず脳卒中医療の問題点を明らかにしていき、1 次予防の現場にフィードバックすることにより脳卒中の疾病対策の充実化を図ってまいります。このような取り組みが認知症発生率にも寄与し、結果として超高齢社会に貢献し、より良い社会につながれば幸いです。諸先生方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



治療をしながら働きたい、 働き続けたい方へ

治療と仕事の両立の仕方について教えてほしい！

通院しながら働きたい！

仕事復帰の不安を解消したい！



自分の病状にあった
仕事を見つけたい！

就職活動で、会社に
病気のことを伝える
べきか迷っている。

～治療と仕事の両立に関する相談会～

在職中・休職中の方

両立支援促進員
(栃木産業保健総合支援センター)
による相談会

◇日 時：毎月第2水曜日
10:00～13:00

(再)求職中の方

就労ナビゲーター
(ハローワーク宇都宮)
による相談会

◇日 時：毎月第2水曜日
13:30～15:30

院内で相談が受けられます！
事前のご予約を！

◇方 法：完全予約制*相談希望月の第1火曜日17時までにお申し込み下さい

◇費 用：無料

◇その他：*疾患の種類・県内外住所地は問いません。

*匿名でのご相談もお受けしております。

◇相談実施場所（自治医科大学附属病院内）

患者サポートセンター医療福祉相談室

◇予約連絡先 0285-58-7107（直通）

◇実施機関連絡先

栃木労働局 ハローワーク宇都宮 専門援助部門 電話028-638-0369 部門コード#45

独立行政法人 労働者健康安全機構 栃木産業保健総合支援センター 電話028-643-0685

◇後援：自治医科大学附属病院 患者サポートセンター



自治医科大学附属病院医師同門会について

当病院では、OB医師を中心に「自治医科大学附属病院医師同門会」を組織し、総会・懇親会の開催や会報の発行等を行っております。

入会の条件は、「①自治医科大学附属病院で、医師・歯科医師として勤務経験があること、②同会の趣旨に賛同していただくこと」の2点のみです。会費は3年間で1万円です。

これを機会に是非入会をお勧めいたしますとともに、皆様方の周囲に当病院OB医師がおられるときは、当会の存在をご案内くださいますようお願いいたします。

入会に関する連絡・照会先は次のとおりです。

自治医科大学附属病院 医師同門会事務局（地域医療連携室内） 担当：伊原麻佑、加納秀樹
TEL 0285-58-7463・0285-58-7461 / FAX 0285-44-5397 / e-mail byoushin3@jichi.ac.jp

FAXによる患者様紹介について

当院では、FAXにより患者様の事前予約を行っております。事前にカルテの作成等事務手続きを済ませておくため、受診当日の患者様の待ち時間が短縮されます。是非ご利用いただきますようお願いいたします。

FAX 事前予約受付（休診日を除く）月曜日から金曜日まで 午前9時～午後3時《厳守》

－ご注意－

- ◆ 医療機関以外（患者様本人等）からの予約受付は行っておりません。
- ◆ 受診当日の予約、および時間予約は行っておりません。
- ◆ 予約を変更（又は取消）される場合は、事前に紹介元医療機関から地域医療連携室までご連絡ください。

< FAX 予約のご利用方法 >

1. 「紹介状（診療情報提供書）」および「FAX診療予約申込書」を作成し、当院あてにFAX送信してください。FAX診療予約申込書は、当院のホームページ（<http://www.jichi.ac.jp/hospital/>）よりダウンロードできます。
2. 当院では予約をお取りし、「FAX・紹介患者のお知らせ（返信）」と「FAX診療予約申込書」を返信します。
3. 患者様に「紹介状（診療情報提供書）」と「FAXによる診療」予約票をお渡しくください。
4. 来院日には、「紹介状（診療情報提供書）」と健康保険証を持参し、医事課・FAX紹介状提示窓口に提示するようご案内をしてください。

